

令和3年度 第2回射水市生活支援・介護予防サービス推進協議会 会議録

- 1 開催日時
令和4年2月21日（月）午前10時～午前11時50分
- 2 開催場所
射水市役所4階 401会議室
- 3 出席者
委員 宮嶋会長、門田副会長、串田委員、島田委員、山崎委員、倉敷委員、
室江委員、向田委員、武部委員、田中委員
事務局 福祉保健部地域福祉課 山口課長、竹島課長補佐、杉谷副主幹、作道係長、
浅井係長、山田主任、小西主事、綿谷第1層生活支援コーディネーター
福祉保健部保険年金課 明課長
市民生活部地域振興・文化課 松下課長
- 4 欠席者
委員 佐野委員、中川委員
- 5 議題
〈報告事項〉
(1) 射水市地域支え合いネットワーク共生社会構築モデル事業の進捗状況等について
【資料1】
〈協議事項他〉
(1) 地域課題の解決に向けた取組について 【資料2】
- 6 会議資料
【資料1】 射水市地域支え合いネットワーク共生社会構築モデル事業の進捗状況等
について
【参考】 射水市地域支え合いネットワーク事業チラシ
【参考】 七美地域コミュニティカフェいっぷく庵 開催カレンダー
【参考】 七美地域コミュニティカフェいっぷく庵 開催写真
【資料2】 射水市地域支え合いネットワーク事業 地域課題一覧表

7 会議記録

○…各委員 ●…事務局

議題

〈報告事項〉

(1) 射水市地域支え合いネットワーク共生社会構築モデル事業の進捗状況等について

【資料1】

○移送支援について、運転する人の条件、保険の有無、利用料はどうされているのか
お聞きしたい。補助金がどのように運用されていくのかということに繋がってくるた

めお聞きしたい。

また、相談員の配置について、福祉全般の相談を受けておられるようだが、どのような人たちを相談員として想定しているのか。

●七美地域の場合、運転手は地域のボランティアであり、普通自動車運転免許所有者としている。補助金については、保険料等に活用いただいている。保険は、民間会社から移送サービスに特化している保険が出てきており、また、社会福祉協議会のボランティア保険等があるので、市から地域へ適宜情報を発信している。利用者は実費相当として100円負担していただいている。運転手となってくれる担い手の確保が課題である。

2点目相談員について、福祉に携わっている方、主に民生委員や高齢福祉推進員を想定している。七美地域は、第3層生活支援コーディネーターとして、保育士の有資格者を配置している。相談員は、行政や福祉サービスに繋げる一步手前の相談を受けることを想定しており、サービス内容等を熟知していることを条件としているわけではない。相談員の方が常設で週4日いてくださることが地域の方にとって安心感につながるのではないかと考える。相談員に資格はなく、地域の中で気軽に相談できる方が望ましいと考える。

○現在、射水市地域支え合いネットワーク事業を実施している地域振興会はいくつあるのか。

●27地域中26地域で実施している。もう一地域についても、現在、事業開始に向けて協議させていただいている。事業開始はしていないが、きららか射水100歳体操や地域ふれあいサロン等、他地域と変わらない活動をしていただいている。

○補助金額は50万円では足りないのではないかと。事業を実施していくには様々な経費が必要である。活動については、一部の民生委員や福祉推進員だけが積極的に事業を担っているが、地域振興会長や役員等が積極的に事業に関与していくべきである。

●地域の実情によって、補助金の使い道や担い手の不足等、様々な課題があることを地域の皆さまからご意見として頂いている。令和5年度には地域の皆さまの声を聞きながら、補助金のあり方について見直しを計画している。広く皆さまのご意見を頂戴したい。

(2) 地域課題の解決に向けた取組について【資料2】

○射水市地域支え合いネットワーク事業や射水市地域支え合いネットワーク共生社会構築モデル事業の積極的な周知が必要であると感じた。

●事業をご存じない方が、特に若い世代に多くいらっしゃることを承知しており、事業の周知が課題であると感じている。将来、自分や親が事業の担い手や支えられる側になることを想像して、地域の課題や活動に興味を持ち、積極的に関与してもらいたい。他者とのつながりが健康維持や介護予防に効果がある。

○企業は利益の追求だけでなく地域貢献が求められる。射水市商工会青年部では「あきんどカタログ」を作成し、会員企業が業種別に事業の紹介をしている。今年度は、このデジタル版を発行している。生活の中で困ったことがあれば、このカタログを使っていただきたいと考えている。

○戸破地域で実施しているチケット制の訪問型生活支援について、活動実績を知りたい。利用されている世帯構成や、どれくらいのニーズがあるのか知りたい。

●戸破地域で実施している訪問型日常生活支援の実績は、10数件と聞いている。コロナで減少傾向のため改めて周知を図る予定。利用者は高齢者が中心である。

○大門・大島地域包括支援センターでは、「8050問題」だけでなく「9060問題」が見受けられる。高齢の母と息子というケースが多いため、50代や40代をターゲットにした介護教室の開催を検討している。

また、若い世代の地域や介護への関わりをきっかけとして、「14歳の挑戦」等で「きららか射水100歳体操」等の集いの場を支援するような活動を計画していきたい。学生が関わることで世代交流になり、普段の集いの場に活気が出る。

○小杉福祉会では、デイサービスの送迎時間以外、福祉車両を貸出することができる。ただし、保険については整理が必要。運転手は地域で確保していただきたい。

また、一人暮らしや高齢者のみ世帯への施策は充実しているように感じるが、現役世代と同居している高齢者の方でも、日中は一人で生活している。その間の見守りについて、課題ではないかと感じる。

また、行政は、高齢者や障がい者といった縦割りで政策を形成するのではなく、こうした方々を一体的に「社会的弱者」として横断的な支援をしていく必要があると感じる。

男性高齢者の社会参加について、男性には役割を持ってもらうことが必要である。ただ受け身の活動だけをしていてもモチベーションが上がらず、継続的な参加に繋がらない。例えば、車の運転による参加者の送迎等を男性にお願いすることも一つの方法と思う。

○福祉車両による送迎が可能となれば、大変ありがたい。とくし丸では、食料品以外の日用品等も注文することができて便利であるが、衣料品等については、実際に見て購入したいと思われる方が多いため、商工会等に属する小売店が地域の集いの場等に出向いて販売してもらいたい。コミュニティセンターに出て来られない高齢者に対しては、地域のボランティアによる出前講座の開催が必要だと感じる。

○「地域あいのり移動支援事業」について、周知を図られたい。シルバー人材センターの会員数が激減しており、担い手不足は社会全体として深刻な課題であると感じる。スマートフォンの使い方教室をシルバー人材センター会員向けに実施してほしい。スマホ教室は、今後DXを進めるにあたり起爆剤になるのではないかと感じる。

○支え合い事業は、民生委員や福祉推進員等、特定の役職の人だけで進めるのではなく、地域の各種団体皆で連携して活動することが大切である。

また、高齢者にとって、今日行くところがあること、社会参加し、他者とのコミュニケーションをとることはとても大切である。

○ボトムアップで社会的弱者の視点から政策を進めていくことが大切だと感じる。高齢者の社会参加がどうして進まないのか、分析した上で適切な対策を考えられたい。

NPO 法人むげんでは、スマホを使った社会参加を促すしくみを検討中。

支援者間の顔の見える関係づくりを進めていきたい。